令和３年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立狭山中学校

１．本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

・国語・数学共に分布も含めて全国と同程度となっています。
・無解答の割合が低く、あきらめずに問題に取り組んでいることがわかります。
・国語では「話すこと・聞くこと」について良好な結果でした。これは授業で文を読み、その内容について自分の考えや班で話し合ったことを発表する活動を日常的に行ってきたからと考えています。
・数学では「図形」について特に良好な結果でした。これは授業で「図形」領域に重点を置いて取り組んでいる成果だと考えています。一方で「関数」や「資料の活用」については課題がありました。正答数５問以下の生徒が約２割いることから、学力に不安を持つ生徒が一定数いることがわかります

２．各教科における成果と課題について

	成　果	課　題
国語	・「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率が高く、普段から行っている自分の考えや他の人の発表を聞いて感じたことを話す活動の成果が表れていると考えられます。 ・とりわけ２年前は全国平均を下回っていた「話し合いの話題や方向を捉える」問題が全国平均を上回るなど、授業づくりの成果が見られます。	・相手や場に応じて敬語を適切に使うなど、伝統的な言語文化については課題が見られます。 ・平均正答率が高い生徒の中にも「言語についての知識理解」に課題が見られました。 ・中でも「詳細」の「詳」を読むことができなかった生徒が全国と比べて正答率が高い生徒に多く、既習事項の定着を定期的に確認し、確かな学力を身に着ける必要があります。
数学	・「図形」領域の平均正答率が高く、扇形の中心角と弧の長さや面積との関係については概ね理解していると言えます。 ・「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題」については、正答率が高くなっています。	・「資料の活用」に課題が見られます。とりわけ、「中央値」については、「平均値」との違いを理解できていない生徒が全国と比べて多く、統計的な内容の学習をより充実させる必要があります。 ・平均正答率が高い生徒の中にも「整式の計算」や「方程式の立式」に課題が見られるなど、基礎基本の確実な定着を進める必要があります。

３．成果と課題を踏まえた今後の取組みの方向性について

（１）全教科における言語活動を充実

言語は「聞くこと」➡「話すこと」➡「読むこと」➡「書くこと」の順で習得します。

「話すこと・聞くこと」の領域で一定の成果が出ていることから、「読むこと・書くこと」を中心に取組みを進めていきます。

具体的には、すべての教科・領域で、教科書や資料を正しく読み、そこからわかることに基づく自分の考えを単に話すだけでなく、正しく書く活動が必要であるということを全教員で認識・実践し、効果的な指導方法を交流します。

（２）スパイラル学習の推進

狭山中では、朝の学習の時間を活用して、基礎学習の定着に向けた取組みを進めています。小学校の時に「難しいな」と思った漢字が大人になると読んだり書いたりできるようになることがあります。それは、成長過程で何度もその漢字に出会い、読む・書くことで自然と身についているからです。

今回の調査結果から漢字の読みや数学の時間で使う基本的な用語の意味理解に課題があることから、朝の学習だけでなく授業中でも少し前に学習した内容について確認する機会を設け、スパイラル状に学習を深める取組みを進めます。

（３）ICT 機器及びタブレット端末の活用

今回の調査ではコンピュータなどのＩＣＴ機器の授業での利用について成果が見られます。すべての教室にあるモニターに資料を提示するなど、視覚的効果を活かした授業を継続するとともに、国が進める GIGA スクール構想における一人１台端末を活用し、インターネット等による調べ学習やプレゼンテーション資料の作成、生徒による相互評価を行うなど、生徒の思考が深まる活用を進めます。

４．学力向上に関する現在の取組みと今後の改善について

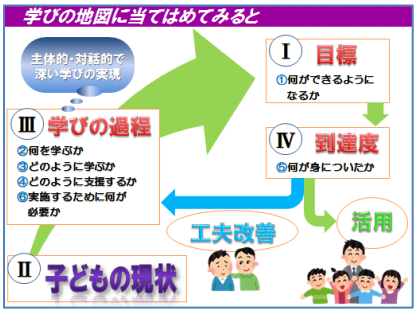
【目標】*学習指導要領改訂の方針に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現*

（１）　教員の授業研究
（２）　学習評価の工夫改善
（３）　全校一斉テストによる基礎基本の定着
（４）　全教科における言語活動の充実
（５）　わかりやすい指示・見える化の推進
（６）　校内研修の充実
（７）　外部人材の活用

本校では上記のように今年度から本格実施となった学習指導要領総則にある「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のため、（１）～（７）の取組みを進めています。
このうち５点に重点を置いて、その方策を示します。

（１）教員の授業研究・（４）全教科における言語活動の充実・（６）校内研修の充実・

〔学びの地図〕



〔校内研修の様子〕

これまで、全教員が「学びの地図」をふまえた授業づくりを研究し、同じ教科や学年の教員が互いに参観、教科ならではの指導方法、教科を超えた指導方法（班活動・発表のさせ方・ＩＣＴ活用等）を学んできました。これにより、全教員の授業づくりにかかる方向性の共通理解が進みました。
今年度はこれをベースにタブレット PC を活用した授業づくりを研究しています。全教員コロナ禍での「対話的な学習」を進めるツールとして活用を進めています。

今回の調査結果や１年生で実施したリーディングスキルテストの結果から、「一定の分量の文章を読み、内容を理解すること」に課題があることがわかりました。特に文中で省略された名詞（それ・あれ等）を補完することに課題が見られることから、教科書や資料・データを声に出して読み、その内容について正しく理解できているかを確認する言語活動を、授業でも意識していきます。

このような授業における活動について、校長はもちろん、市教育委員会指導主事や市内管理職、学識経験者からの助言を受け、子どもたちの「課題に正対した授業改善」を進めていきます。

（３）全校一斉テストによる基礎基本の定着

朝学習の時間を設定し、５教科（国・社・数・理・英）の基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んでいます。年間２回、全校一斉にテストを行うことで、学習内容の定着状況の確認を行っています。

今回の調査結果から、平均正答率が高い生徒でも漢字の読みや基本的な数学用語の理解など、基礎的な学習内容について課題が見られました。加えて、正答数５問以下の生徒も一定数いることがわかりました。

このことから、各教科の基本となる用語や定義、計算等は短いスパンで確認し、ミスなく確実に使えるようにしていく必要があります。また、日頃から物事を落ち着いて丁寧に進めていくよう指導していく必要があります。

今後は年２回ではなく、定期テストや授業中の小テストにおいても、学習内容の定着状況を繰り返し確認することで、確かな学びにつなげていきます。

（７）外部人材の活用

学校づくりや授業づくり、子ども理解といった様々な視点から学識経験者など外部人材のかたに助言をいただいています。また、大阪大学や関西大学とも連携し、「力のある学校」について研究を進めています。加えて大塚製薬など民間事業者の協力を得ながら教科指導以外でも、子どもたちや教員を元気にする取組みを進めています。

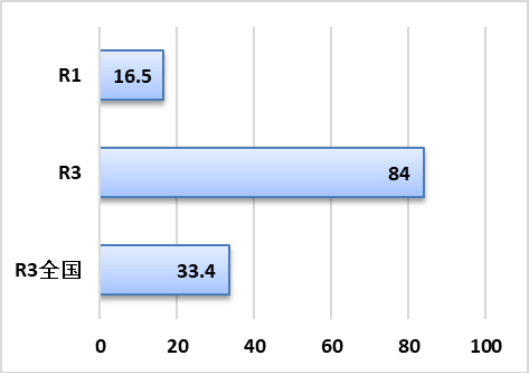
今回の結果から、国語・数学ともに「教科を学ぶことの大切さ」に課題がありました。これは日頃から「この学習が次の学年や高校のどの分野につながるのか」や「今の学びが将来、何に役立つのか」などが十分に伝わっていないことが考えられます。

今後も引き続き、外部のかたから、本校の取組みや子どもたちの様子を見ていただくとともに、民間事業者とも連携し、教科はもとより、総合的な学習の時間や学級・委員会活動を通じて、将来につながる学習を進めていきます。

５．生徒質問紙調査の結果の概要（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉

【質問】１・２年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器などをどの程度使用しましたか



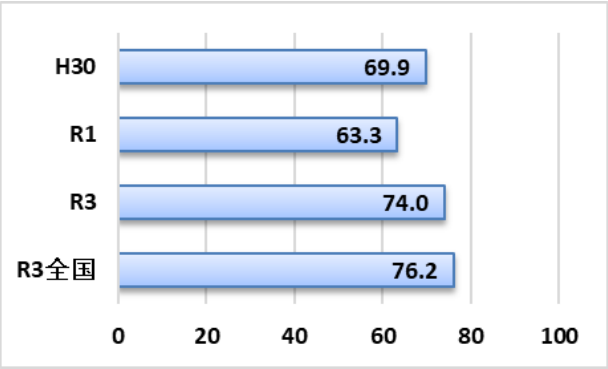
多くの授業でプレゼンテーション資料作成ソフトや映像資料を活用した教材を使用しています。教材を全ての教室に設置しているモニターに映し出し、生徒の興味関心を高めることにつなげています。

また、１人１台タブレット PC が配られる以前から、技術科や英語科を中心に、コンピュータを活用する機会も多く、全国平均を大きく上回る結果につながったと考えています。

今後も引き続きコンピュータや映像を活用した授業を進めるとともに、１人１台 PC 時代の授業研究を進めていきます。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

【質問】自分にはよいところがあるとおもいますか。



授業や部活動、委員会活動や行事など学校生活の様々な場面で子どもたちの頑張る姿をほめてきました。成果が出ているものの、引き続き、取組みが必要だと感じています。
家庭や地域とも連携し、子どもたちの「よい発言や行動」をタイムリーに褒めていきます。

６．保護者・生徒のみなさんへ

〇生徒のみなさんへ

みなさんは、落ち着いた校風を自分たちで築いています。どの教室も学習規律が整っており、学校生活のどの場面においても、ほとんどの人が時間やルールを守って取り組むことができています。これから社会へ出ていくうえでルールやマナーを身に着けることは大切です。引き続き取り組んでいきましょう。

教科の学力については、難易度の高い問題にも挑戦する姿が見られました。普段から「出された課題は最後までやりきる」姿勢が表れたと思います。

基礎的基本的な内容を身につけ、自分の考えを書く力が備わっています。

一方、基礎的な事柄で「本来ならできるはず」なのにミスをしている様子が見られました。他の難しい問題は正解できているのに、「うっかりミス」をしています。多くの人が挑戦する高校入試で同じことにならないよう、普段の生活から「落ち着いて問題をよく読み、考えること」が必要です。

質問紙調査からは、「友達と協力するのは楽しい」や「話し合い活動」について意識が高く、うれしく思います。

一方、「計画を立てて勉強する」や「読書の時間」などの項目に課題が残ります。家庭での時間を有意義に過ごし、自分の力を高めて欲しいと思います。

〇保護者の皆さまへ

朝食については大きく改善してきています。ご協力ありがとうございます。しかしながら、睡眠やスマートフォンに関する約束などの項目で、全国平均を下回っています。子どもたちは塾や習い事など忙しく、また情報機器の発達により様々なツールに触れる機会も増えています。体調管理やトラブルに巻き込まれないようご家庭のルール作りをお願いします。

また、自尊感情を高めるために子どものよさを認める言葉がけについても成果が出てきています。「可愛くば、五つ数えて三つ褒め、二つ叱って良き人となせ」、ついつい二つ叱るを忘れがちですが、学校も保護者も「褒める」を必ず多くして、子どもたちを共に育てていきましょう。